

県民の皆さんの取組状況

順不同

取組団体名	取組事例
BPW和歌山クラブ	<p>★4月28日(木)、「イコール・ペイ・デイ」広報活動実施(4名) 5月9日(金) (行政、経済団体、連合) (3名)</p> <p>★6月5日(土) 第15回 BPW連合会総会(ハイブリッド)参加 共通テーマ:SDGs達成まで9年を切った!真のジェンダー平等実現へ、 ともに走り続けよう!</p> <p>★11月26日(土) 近畿ブロック研究会・ヤングスピーチコンテスト (大阪クラブ担当)参加(4名) ＜ヤングスピーチコンテスト＞ 和歌山クラブのヤングスピーカー:高柳 沙月氏(株式会社ラコマ)</p> <p>★例会(毎月第3土曜日 13:30~15:30) 【活動目標】 ジェンダー平等実現のために、グローバル・ジェンダーギャップ指数(GGGI)四分野の「健康分野」および「経済分野」に着目し、「女性への暴力や性暴力をなくすための取り組み」と「女性管理職を増やす取り組み」とした。</p> <p>4月16日(土) ・和歌山クラブ総会準備(8名) ・イコール・ペイ・デイの広報活動について</p> <p>5月21日(土) 連合和歌山女性委員会との意見交換会と講演(16名) 講師:宮本京子氏(和歌山県男女共同参画センター長)</p> <p>6月18日(土) BPW和歌山クラブ総会開催(ハイブリッド)(12名) 付帯事業 講演「性暴力救援センター和歌山・性暴力被害者支援について」 講師:奥田美和子氏(和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 女性相談課主任)</p> <p>7月9日(土) 卓話「働く女性の健康管理」(10名) 講師:辰田仁美氏 (和歌山労災病院呼吸器内科部長・女性専用外来(兼))</p> <p>8月20日(土) 県内の女性管理職の比率や給与水準比較等の学習(5名)</p> <p>9月17日(土) 11月例会についての準備、スピーチコンテストについて(5名)</p> <p>11月19日(土)【公開講座】女性がもっと活躍できる職場とは? ～働きやすい職場・管理職・賃金格差～ 和歌山県女性活躍推進賞受賞の三企業*の講演と意見交換会(14名) *(医療法人藤民病院、小西化学工業(株)、(株)インテリックス)</p> <p>12月17日(土)【公開講座】「女性への暴力をなくすために」(15名) 講師:新田裕子氏(フェミニストカウンセリング堺)</p> <p>2023年 1月21日(土) 新年会・意見交換会(8名) 2月18日(土) 新年度事業への取組について(3名) 3月19日(土) 「100分deフェミニズム」の視聴・意見交換(5名)</p>
GEはしもとサピユイエ	<p>★毎月一回例会を実施。</p> <p>★女性の居場所事業 サピユイエほっとサロンの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月29日 良い母・妻・娘をやめてみる ・11月30日 言いたいこと言えますか ・1月31日 自分を大切にできていますか

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
GEはしもとサピユイエ (つづき)	<p>★市内中学校にてデートDV防止授業を実施（橋本市と協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月15日隅田中学校2年生3クラス ・10月28日紀見東中学校3年生3クラス ・11月30日高野口中学校3年生3クラス ・12月20日紀見北中学校2年生2クラス ・1月12日、13日、17日橋本中央中学校3年3クラス <p>クラス毎に授業を行った。</p> <p>★橋本市「まなびの日」（11月13日）にて女性への暴力防止の啓発活動パープルリボンキャンペーンを行った。りいぶるの小中高生による男女共同参画啓発ポスター入賞作品の展示、パープルリボンツリー啓発、アンケート、手作り作品の啓発グッズを配布を実施した。</p> <p>★和歌山県性暴力被害者支援ボランティア養成講座に参加</p> <p>★和歌山県DV被害者支援ネットワーク会議 研修 参加</p>
JA和歌山中央会	<p>★JA運営への女性参画の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA女性役員研修会の開催 時期 令和4年8月 参加者 JA女性理事 ・県女性会と中央会・連合会役員との対話集会の開催 時期 令和4年12月 参加者 女性会役員他 内容 女性会参画について意見交換他 ・JAへの女性参画促進 女性の運営参画県域指標にもとづく参画促進 実践目標 県域指標 正組合員加入 50% 総代への就任 30% 理事への登用 15%
ウィメンズスペース花	<p>★定例会（月1回）を行い、DV・性犯罪被害者支援についての学習や意見交換を行った。</p>
ウィメンズスタディズ熊野	<p>★活動内容（活動の本拠地：新宮市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV被害者支援：電話及び面接相談、関係機関への同行支援 ・デートDV防止講座：小学校・中学校・高校への講師派遣 ・県及び市の街頭啓発へ協力 ・関係団体とのネットワーク（勉強会・イベントへの参加） ・熊野市の「パープルリボンくまの」「くまのWAN」の活動に協力 ・令和4年度DV被害者支援ネットワーク会議 講演「リスペクトアザーズ」～DV・児童虐待被害者支援に携わって～ 講師 村上 恵美子（ウィメンズスタディズ熊野代表）
つばさの会・和歌山	<ul style="list-style-type: none"> ★ 2022年5月28日（土） 定期総会 串本町で開催 (オンラインでの参加もあり) ★ ニュースレター 年3回 発行 ★ 2022年11月19日（土）「ふれあい人権フェスタ」参加 クリスマスカード作りなど

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
つばさの会・和歌山 (つづき)	<p>★ 2022年11月20日(日) 13:30~16:00 会場 和歌山ビッグ愛9階会議室C /ZOOM オンライン 定員 会場・ZOOM それぞれ30人 和歌山高等教育機関コンソーシアム和歌山「わかやま学」講座 「持続可能な居場所づくりに向けて」 現地トークでつなぐこれからの居場所</p> <p>地域で生活していくには生業と共に居場所がかかせない。子どもから高齢者までの色々な居場所を考察し、持続可能な居場所づくりを考える。</p> <p>事例1:「どっこい森はいきている」 プレゼンター:「NPO法人根来山げんきの森倶楽部事務局長」岡田和久氏 事例2:「親子で自由に遊べるほっとルーム ぐるんば」 プレゼンター:「NPO法人きのくに子どもNPO理事」佐藤百子氏 事例3:「新たな[自分]や{仲間}との出会い」 プレゼンター:「創-hajime cafe-施設長」野中康寛氏 事例4:「農業でわかものをつなぐ」 プレゼンター:「善兵衛農園七代目園主」井上信太郎氏</p> <p>コーディネーター:「和歌山大学観光学部准教授」永瀬節治氏</p>
一般社団法人 和歌山県農業会議	<p>★女性農業委員・農地利用最適化推進委員登用促進に向けた各市町村農業委員会への働きかけ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度 農業委員及び農地利用最適化推進委員等研修会」資料において、他府県の女性農業委員・農地利用最適化推進委員が活躍した事例を研修資料に掲載し、全農業委員・農地利用最適化推進委員に配布した。 また、農業における女性の活躍の状況と効果分析事業等について、文書を通じて各市町村農業委員会に周知を図った。 <p>★近畿農政局女性農業委員座談会への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿農政局が主催し、京都府で開催された「近畿農政局女性農業委員座談会」へ参画し、近畿府県の女性農業委員とともに、農業委員会への女性登用に係る課題や方策について意見交換を行った。 <p>★女性の農業委員会活動推進シンポジウム等の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)全国農業会議所、全国農業委員会女性協議会が主催し、東京都で開催された「第18回 女性の農業委員会活動推進シンポジウム」や、「女性の委員のための農業者年金セミナー」について、各市町村農業委員会に周知を図った。 また、女性を農業・農村へ呼び込み、定着してもらうことで、将来の農業生産を支える人材を育成する「女性の就農環境改善支援対策事業」(令和4年度農林水産関係補正予算)の公募開始等について、各市町村農業委員会に周知した。
特定非営利活動法人 和歌山eかんばにい	<p>★男女共同参画推進に関わる啓発等活動事業(令和4年4月1日~令和5年3月31日):「和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”一部委託事業」受託</p> <p>★総会記念講演「食が支える健やかな心とからだ~自分らしい暮らしのために」令和4年6月12日開催。(参加者:20人 場所:和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”会議室A) ヒューマン・トータルバランスサポート「りんと」代表・精神保健福祉 谷水美香さんを講師に、「リプロダクティブ/ヘルス・ライツ」の視点から自分らしく暮らすために身体と心をととのえる「食」について講演いただき、日々の生活に活かせるポイントを研修した。</p> <p>★男女共同参画関連資料の会員への提供 期間:令和4年4月1日~5年3月31日(30人)</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 和歌山eかんばにい (つづき)</p>	<p>★「おさえておきたい、離婚にまつわる法律と戸籍の知識」 令和4年12月14日（参加者：10人。場所：和歌山県男女共同参画センター会議室B） 離婚について、予め知っておくと役に立つ法律的な知識や、離婚により発生する戸籍や氏の変更等についての知識を得る講座を開催した。離婚に関する相談を受ける立場にある相談員等の専門職の方や離婚を考えている方等に、基礎知識としてそれらの知識をもち、離婚協議や調停等に役立てる他、子を含む新しい生活に活用してもらうことを目的とした。</p> <p>★「保育つき読書の時間 plus」、新型コロナウイルス感染防止啓発ブックマーク作成事業（和歌山県男女共同参画センター共催）実施期間：令和4年6月17日～12月1日 参加者：4,086人 場所：和歌山県男女共同参画センター”りいぶる” 図書・交流スペース、会議室A・B・C、一時保育室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書等購入（子育ての参考になる書籍、4回実施の「保育つき読書の時間 plus」において、参加者に活用して貰える、新型コロナウイルス感染拡大状況での最新の子育て関連本や感染防止、コロナ差別をなくすよう人権感覚を育む本、子供向けの絵本等、貸出可能な子ども向けDVDの購入） ・オリジナル葉（イラストレーターによるオリジナルのイラストと自分の命を守るための啓発メッセージを入れたブックマーク）4000枚作成し各方面に配布・啓発 ・「保育つき読書の時間 plus」 9月29日、10月20日、11月17日、12月1日計4 回開催 <p>内容：新型コロナウイルス感染拡大はピークを過ぎたように見受けられるものの、なお続く中、在宅勤務やリモート活用など私たちの働き方や生活の仕方が一変し、コロナ前に比べて家族が家庭で過ごす時間が多くなり、親は子供の世話（子育て）や家事にかかる時間が長くなっている。内閣府の調査で、コロナ下での子供の世話や家事の負担が男性(夫)に比べ女性(妻)に多くかかっていることが報告されていることを背景に、生後半年から就園前の子供を育てる人を対象に子育ての孤立化を防ぎストレスを軽減することを目的として、子供を専門の保育スタッフに預け、子供と離れて自分ひとりの読書の時間をもつ機会を提供する事業。また、子供は年齢で少人数に分け、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた安心で安全な空間で遊べるよう準備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止啓発ブックマーク作成 <p>和歌山県男女共同参画センター”りいぶる” 図書・交流スペースや図書貸出利用者を対象に、自分のからだは自分で守るよう、新型コロナウイルス感染防止啓発のメッセージを記載したブックマーク（本の葉）を配布し感染防止を広く啓発する。</p> <p>★人権尊重意識の更なる醸成にかかわる事業：ニュースター特別号作成 令和4年12月発行（A4版100部）</p>
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO</p>	<p>★コロナウィルスの影響下での活動 2023年3月にはようやくマスクの着用は個人の判断ということになりました。しかし、多くの方は、周りの対応を様子見しているような状況です。長引くコロナ禍で出産の時から孤独に子育てが始まり、外出を控えていた親たちも多くいます。そしてそのストレスが子どもに向いてしまうことも少なくありません。社会にはまだまだ子育ては母親の責任という考えが根強くあり、母親達は自分を責めています。まずは母親達の声を聞く、話を聞きしんどい思いを吐き出してもらおう。そして、そのままを受け入れ日頃のがんばりを労う中で母親達は変わっていきます。母親の気持ちが穏やかになると、子どもにも伝わりのびのびとあそぶようになってきます。 人と人がつながり、関わり合って支えあうことの大切さを改めて感じています。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>★地域子育て支援拠点事業 「ほっとルームぐるんぱ」の開設。(和歌山市委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進。 ・子育てコーディネーターによる子育て相談・援助の実施。地域の子育て関連情報の提供。 ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 <p>拠点である「ぐるんぱ」は8月に改装し、居場所をひろげました。ちょっと大きい子と赤ちゃんがすみわけできるようにしました。改装後、利用者も増えています。</p> <p>孤独で不安を抱えている子育て親子にとって、スタッフが常駐していて、いつでも誰でも気軽に利用できる地域子育て支援拠点がどれほど重要かを改めて感じています。「ぐるんぱ」はコロナ禍のなかでも、人数制限時間制限をかけずにやってきました。スタッフが丁寧に話を聞き、親同士子ども同士をつなぐことができる、必要なら保健センターなどの相談機関につなぐこともできます。初めての利用者にはスタッフがでない母親がさりげなく声をかけるなど、利用者自身の「拠点を居心地の良い空間にしたい」という気持ちが温かい雰囲気を作り出しています。</p> <p>わらべうたや紙しばい、絵本の日、ばあばとあそぼうなどは、コロナ禍の感染状況を見極めつつできるだけ開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレママプレパパ支援企画「みんなで赤ちゃんを迎えよう！」 <p>第1回 講座&ワークショップ おもちゃと絵本の選び方&手づくりおもちゃ 講師 大野久美子先生</p> <p>第2回 ワークショップ モビールづくり 講師 先輩ママ</p> <p>第3回 講座 「産前産後の母体のホルモンバランスについて、産後の生活、パパは何をする？」 講師 山田ゆかり先生</p> <p>第4回 第3回アフター回 山田先生とおしゃべり会</p> <p>第1子の赤ちゃんを迎えるママパパを対象にした企画を昨年に引き続き行いました。</p> <p>今年度は全て対面で実施することができました。各回共に、赤ちゃんを連れてぐるんぱを利用しているママパパにも参加してもらい、プレママプレパパと交流することができました。第4回には1ヶ月の赤ちゃんに参加した育休中の先輩パパもいて、今現在のママの様子、子どもの様子、パパ自身の思いなどを包み隠さず話してくれました。また先輩ママも産後のパパとの関係を赤裸々に話してくれる場面もありました。プレママ、プレパパからはわからないことがあるとSNSなどで調べてはいたものやはり経験者の生の声を聞くことができ良かった、との感想も聞けました。講座終了後にはぐるんぱも見学して、利用者のママ達と話をしたり、子ども達のあそぶ様子を見ることができました。実際に見たことで出産後にしんどくなった時などに、気軽に利用しやすくなったのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウェイ育児支援企画「つながるおしゃべり会」 <p>結婚や引っ越しで他県から来て和歌山で子育てしている（アウェイ育児）の親対象の企画です。前年度の同じ企画の参加者の中から先輩ママとして3人が協力してくれました。最初に先輩ママから自己紹介をはじめ、しんどかったことや困っていたことなどが出たことで、他の人も話しやすい雰囲気になりました。知り合いがいないうちでの子育てなので、つながりたい思いも強くあり、1回目の終わりにはライン交換をする人もいて、最終的にはライングループもできていました。今後のことを話し合った時に、これからも継続して集まりたいという意見が出ました。自ら連絡役を買って出た先輩ママがあり、ママ達主体で集まっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるんぱメール 第18号作成 <p>ぐるんぱを利用し始めた母親達からは「もっと早く、こんなところを知りたかった、来ていたらこんなにしんどくなかったかもしれない」「赤ちゃんのうちはずっと寝るものだと思っていた」といった意見がよく聞かれます。これから赤ちゃんを迎える人々には同じ思いをさせたくない、との思いで今回のテーマが決まりました。これから赤ちゃんを迎える人たちがしんどくならないように、また、パパにも届くような内容にと話し合いの中でまとまりました。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>今回のぐるんぱメール会議には、「地域子育て支援拠点における母親たちのエンパワメントの可能性」という研究テーマを持つ和歌山大学の学生が参加しました。事例研究の場として母親からの聞き取りなども行い、お互い深い意見交換ができました。ジェンダーの視点を持つ学生の参加により、これまでの活動を客観的に評価する機会が与えられ、ぐるんぱメールをはじめとする、拠点での活動とエンパワメントとの結びつきの重要性を改めて認識しました。</p> <p>★パパの子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てパパの集まり（イクメンPaPaの会）の会議を月1回定期的に開催、パパ主催の企画を立案したり、子どもたちの遊びの企画の時に、主体的にかかわりを持てるように準備したり「遊び」を通じて子育てに積極的にかかわる父親を増やす活動を継続して行っています。コロナウィルスの影響で会議を開くことがむづかしくなっていますが、オンライン形式も入れながら定例会を続けています。 <p>★和歌山市ファミリー・サポート・センター(和歌山市委託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センター（ファミサポ）は地域での助け合いによる子育て支援事業です。身近に助けを得られる、頼れる人がいるという安心感や心強さをもたらす子育て支援として、貴重な存在です。 ・子育てを援助してほしい人と子育てをサポートしたい人をコーディネートし、地域で安心して子育てできるようサポートする会員組織の運営。（令和4年3月末、全会員数 1481人） <p>コーディネートしたお顔合わせは今年度過去最多の211件になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・緊急対応強化事業 <p>子どもの病時病後時の保育に対応しています。実際に利用する人は少ないのですが、利用の登録者は多いです。働いている親にとって子どもの病気のときにフォローできる制度は安心材料の一つになっていると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターは一時保育をコーディネートする役割だけでなく、子育て家庭のセーフティーネットとしての役割がますます大きくなっています。地域での相互援助活動の枠に入りきらない継続的援助、専門的な援助が必要なケースが増えています。行政機関や民間の支援施設等と連絡を取りながら可能な支援情報を提供するなどして、相談を受けています。 ・講習会の開催（年2回）。会員登録（スタッフ会員・提供会員・両方会員）を希望する市民に対し、子育て支援の意義や役割を理解し、具体的スキルを学ぶ講座（24時間）を実施。サポートする会員の増加に努めています。講座は、子育て中の母親の受講も増えており、受講をきっかけに仕事や社会的活動を始める人もいて、母親のエンパワメントにつながっています。 ・交流会 <p>サポートする会員のスキルアップのため、交流会を実施。普段顔を合わせることの少ない「スタッフ会員」「提供会員」が活動内容について気になることを話したり、意見交換する機会を作っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会 <p>地域にファミサポを広め、会員同士交流できる場として「ファミサポキャラバン」開催。ファミリー・サポート・センターを知ってもらい、身近に感じてもらうきっかけになっています。</p> <p>★ベビーシッター「きのくにっこ」「きのくにっこmini」</p> <p>小さい子どもを持つ家庭を支援するために、必要に応じて一時的保育を提供。</p> <p>母親、女性対象の講座や勉強会、演奏会などの時の一時保育（グループシッター）を受けています。</p> <p>★「養育支援訪問事業・家事援助業務」（和歌山市）「和歌山市母子家庭及び寡婦、父子家庭生活支援員派遣事業委託」を受託。支援が必要な子育て家庭に対して、支援員を派遣し、行政との協力の下に子育て家庭を支えています。支援が終了したあとも、つどいの広場へつなぐなど地域での子育て支援機関と親子が継続してつながっていけるよう意識的に取り組んでいます。</p>

取組団体名	取組事例
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>★児童発達支援 親と子の広場・アン、ポコ ・子どもの成長・発達に不安のある乳幼児を対象に、リズム遊びお絵かき、外遊びや散歩など遊びを楽しみながら五感（見る・聞く・触れる・におう・味わう）を刺激し、丈夫な体作りと豊かな発達を保障することを目的に活動しています。併行通所もおこなっています。 ・保護者同士がつながりあえるよう親の会、学習会を行っています。 ・児童発達支援の場でも母親達が抱えている問題は多様で複雑になっています。社会との繋がりが薄れる中、家族にもわかってもらえず、ひとりで悩み孤独な子育てをしている母親が増えていると感じます。子ども総合支援センターのケース会議や保健センターや他事業所と懇談を重ねるなど多機関との連携が必要な場合もありました。 ・保護者同士がよりつながり合える場として、交流会を行っています。情報交換するなかで「みんな同じような悩みを持っている」「自分だけではない」とわかり、安心できる場所になっていきました。共鳴し合える仲間の存在は自信になり笑顔がふえた親も多いです。我が子以外の子どもに関わったり、孤立している親子にやさしく声をかけるなど和やかな雰囲気になります。また、卒所してからも悩みや不安は尽きません。OB会などつながりが続けられる場を作っています。</p> <p>★子どもの居場所「チャティーもあ」 毎週土曜日に子どもの居場所を開催。絵本の読み聞かせ、読書活動、アート制作、外遊びと様々な活動を行っている。土曜日も仕事している家庭の子ども「学童保育」としての役割も持っています。様々の個性・特性を持つ子どもたちが、話し合いをしてやりたいことを決め、実行しています。集団での活動が子どもたちの自主性や協調性を育てています。プレーリーダーが丁寧にかかわることで、お互いに違いを認め合い、尊重し合うことができるような集団となることをめざして活動しています。</p> <p>★長期休暇学童保育事業 「あみはうす」 春・夏休みに家で留守番している子ども対象に、長期休暇にしかできない遊びや集団での遊びを体験し、仲間づくりができるような学童保育を実施。ゲームやyoutubeが子どもたちの生活に大きな影響を与えているが、ネットを離れて遊びあう居場所を作っています。 仕事で一日家を空けている保護者が安心して子どもを預けられる場を提供しています。</p> <p>★子どもに関わる人たちの学習交流、人材育成 「“発達する“ってどういうこと?” 3月10日(金) 講師 下地咲紀さん (発達指導員)</p> <p>発達とは、その子自身が発達のねがいをもち、主人公として様々なことを経験し、自分自身をつくり変えていく営みのこと。発達のねがいは、楽しさや憧れから生まれる、自分自身の内に潜在している可能性であり、よろこびを共感できる仲間の存在が自分自身への信頼感となり、発達の原動力となる。また、誰からも評価されることのない自分が大好きな遊びや楽しいことが、難しいことに挑戦しようとするエネルギーとなる。発達には共通の道すじがあり、たどる道のりは同じ。能力や技術も大事だけど、自分で自分を肯定できることが大切。などのお話がありました。 「できないこと」を「できるようにする」ことではなく、「もう一回やってみよう」という気持ちを育てること、できなくてもまあいいかと思える心の安定感、ありのままの自分でいいと思えることが大切。子どもにとってだけでなく、親自身にも大事なことで、親が安定していることで子どもの安心にもつながり、発達の原動力になります。子ども同士はもちろん、親同士もよろこびを共感できる仲間を作ることが大切だと思います。</p>

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

数値目標の内容	目標時期
<p>特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO (つづき)</p>	<p>★「子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす」 支援 特に地域で孤立しがちな「母子家庭・父子家庭」や困りごとを抱える親子の支援を「子どもの生活支援ネットワーク こはうす」と協力し、情報を共有しながら行っています。 居場所での集まりがむつかしい時はフードパントリーを実施し、親子を支援している。</p>
<p>特定非営利活動法人 チーム紀伊水道</p>	<p>★和歌山県内での交流会実施 ①2022年4月10日:和歌山市交流会 和歌山市東部コミュニティセンター ②2022年5月19日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館 ③2022年6月11日:2022年度チーム紀伊水道総会・和歌山市交流会 ④2022年7月3日:田辺市交流会 紀南文化会館 ⑤2022年7月21日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館 ⑥2022年8月10日:和歌山市交流会 和歌山市東部コミュニティセンター ⑦2022年8月20日:御坊市交流会 御坊市中央公民館 ⑧2022年9月15日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館 ⑨2022年10月23日:和歌山市交流会 和歌山市東部コミュニティセンター ⑩2022年11月17日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館 ⑪2022年11月23日:田辺市交流会 紀南文化会館 ⑫2022年12月17日:和歌山市交流会 和歌山市東部コミュニティセンター ⑬2023年1月19日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館 ⑭2023年2月19日:和歌山市交流会 和歌山市東部コミュニティセンター ⑮2023年3月16日:橋本市交流会 橋本市高野口地区公民館</p> <p>★イベントへのブース出展、参加、企画 ① 2022年5月8日:わかやま愛ダホ！2022 場所: JR和歌山駅西口歩道（正面玄関前） 内容:LGBTQ/SOGIESCに関する街頭でのメッセージの読み上げによる啓発活動、メディア取材等による啓発・広報活動 ② 2022年10月29日:男山ハロウィンマルシェ 場所:男山中央センター商店街(京都府八幡市) 内容:リーフレット配架等による啓発活動 ③ 2022年11月3日:サンバ(産婆)フェスタ2022 場所:11月3日:南海波切ホール(大阪府岸和田市) 内容:ブース出展を通じた啓発活動 ④ 2022年11月3日～11月6日:第2回 白良浜deひらひらTシャツアート展 場所:白良浜(白浜町) 内容: Tシャツアート作品の展示による啓発活動 ⑤2022年11月6日:レインボーフェスタ那智勝浦2022 場所:ブルービーチ那智 熊野体験博跡地(那智勝浦町) 内容:リーフレット配架による啓発活動 ⑥ 2022年11月19日:ふれあい人権フェスタ2022 場所: 和歌山ビッグホエール(和歌山市) 内容: ブース出展を通じた啓発活動 ⑦ 2023年1月15日:にじわか知ってもらい隊 ザ・ムービー -LGBTQ映画上映会 in御坊- 場所: 御坊市中央公民館 後援:和歌山県・御坊市 協力:ハッピーママライフ(HML) 内容: 3作品の上映と資料・パネル展示 『メゾン・ド・ヒミコ』(2005年/131分) 『片袖の魚』(日本語字幕有/2021年/34分) 『愛と法』(日本語字幕有/2017年/94分) ⑧ 2023年1月26日:『わたしらしくあなたらしく 多様な性を生きる』オンライン上映会 内容: 2018年に撮影した橋本市交流会や理事のインタビューが収録されている映像作品のオンライン上映(主催:世界人権宣言大阪連絡会議) ⑨ 2023年3月5日:岸和田レインボーパレード 場所:岸和田城周辺/岸和田市総合福祉センター(大阪府岸和田市) 内容:プライドパレード(LGBTQ/SOGIESCに関する多様性を祝い、社会へ啓発をするソーシャルアクション)への参加</p>

取組団体名	取組事例
特定非営利活動法人 チーム紀伊水道 (つづき)	<p>★SNSによる啓発・広報活動 ホームページ:http://kii.coron.jp/ Instagram:https://Instagram.com/kii_suidoh X(旧Twitter):https://twitter.com/kii_suidoh facebook:https://www.facebook.com/kii.suidoh</p> <p>★メディア出演による啓発・広報活動 ①2022年5月8日 テレビ和歌山 内容:わかやま愛ダホ! 2022開催に関するニュースでの報道 ②2022年8月12日 WBS和歌山放送ラジオ「しそまるの全開! 金曜日」 内容:チーム紀伊水道の活動紹介 ③2022年11月2日 毎日新聞(和歌山)朝刊 内容:「全国で広がるパートナーシップ制度導入 県内、目立つ消極姿勢 毎日新聞調査」でのコメント掲載 ④2023年1月3日 日高新報 内容:2023年1月15日開催「にじわか知ってもらい隊 ザ・ムービー - LGBTQ映画上映会 in御坊-」に関する告知記事 ⑤2023年1月 日高新報 内容:2023年1月15日開催「にじわか知ってもらい隊 ザ・ムービー - LGBTQ映画上映会 in御坊-」に関する記事</p> <p>★メール相談/対面での個別相談実施 ・性自認や性的指向に関するメール相談を随時実施 ・対面での個別相談(交流会等の会場)で随時実施</p> <p>★講師派遣による講演活動を通じた啓発活動 ①奈良県生駒市の看護専門学校での生徒への講演 ②紀の川市教育委員会主催「心と視野を広げよう じんけん学習講座」での市民を対象にした講演 ③大阪府阪南市の幼稚園・小学校・中学校教員を対象にした講演 ④和歌山県人権教育研究会夏季研修会での教員を対象にした講演 ⑤大阪府高槻市の中学校で生徒(全学年)を対象にした講演 ⑥紀の川市の小学校で教員対象の講演 ⑦和歌山県立の高校(和歌山市)での生徒(高校2年生)への講演 ⑧和歌山県の高校(橋本市)で生徒(全学年)を対象にした講演 ⑨東牟婁圏域の保健師・管理栄養士を対象にした講演(新宮保健所 串本支所で実施)</p> <p>★チーム紀伊水道及びLGBTQ/SOGIESCに関するインタビューによる活動等 ①私立高校(和歌山市)の生徒によるLGBTQ/SOGIESCに関するインタビュー(オンライン) ②大学生(和歌山大学)の卒業研究によるLGBTQ/SOGIESCに関するインタビュー(対面) ③大学生(京都外国語大学)の学生団体活動によるLGBTQ/SOGIESCに関するインタビュー(オンライン) ④わかやま市民生協との打ち合わせ(対面) ⑤和歌山市男女共生推進課とのヒアリング(対面) ⑥和歌山県職員向けガイドラインへの意見提出(書面) ⑦レインボーカフェin岸和田(大阪府岸和田市)での看護学生からのLGBTQ/SOGIESCに関するインタビュー(オンライン/複数回参加) ⑧和歌山県男女共同参画審議会委員就任(理事長:倉嶋 麻理奈) ⑨橋本市役所 人権・男女共同推進室からの講師派遣相談・調整(10月4日開催) ⑩「わかやま愛ダホ!」の今後の活動に関する、他団体との打ち合わせ(オンライン)</p>

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
<p>公益社団法人 和歌山県看護協会</p>	<p>男女公正に採用・登用・育成する環境づくりをしています</p> <p>★看護職員の定着促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナース相談窓口 土、日、祝日を除く毎日 看護研修センター 1,892件 ・ナースお仕事相談 月4回 ハローワーク和歌山・田辺 実施回数45回、延べ来所者31名 <p>★「看護の心」普及事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の日記念事業ナースデイフェスタ 5月6日 講演「コロナ禍での看護職」175名 ・看護の日・1日まちの保健室 県内4か所で健康チェック 407名 ・出前授業の開催 県内4高校 74名 <p>★潜在看護職復職支援研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・技術演習・病院実習・訪問看護ステーション実習 6日コース 17名（17名再就業） <p>★再就業促進研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：医療設備のないイベント会場での救護対応を学ぶ 19名
<p>和歌山県生活研究グループ 連絡協議会</p>	<p>★機関紙を発行（年1回）した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女がともに活躍できる社会の啓発を行った（男性からのメッセージ記事掲載）。 <p>配布部数 約530部</p> <p>★むらとくらしを考える会議を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「むらとくらしを考える会議」を県と共同開催し、女性、高齢者グループの生活・生産に関する表彰式を実施するとともに、講演会への参加や活動事例報告を行った。
<p>和歌山県婦人団体連絡協 議会</p>	<p>★子ども・地域・ふれあい事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代に安心を送ることを目的に、地域で子どもを育て、護る。サポートする会員自身が活動を通じて、豊かな心を育む機会と場を提供しながら様々な活動に取り組んだ。（紀の川市婦人会で実施） <p>★人権を考えるつどい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題について正しい認識をもち、私たちの日々の暮らしの中で起こる様々な問題について、女性の視点に立って考え、学び、地域の実情に即した人権学習の推進をはかるとして開催。有田市民会館紀文ホールにて、「共に育ち合い、共に生きる社会を創る」～すべての人が、共に暮らしやすい地域の実現をめざして～と題し、大阪教育大学特任教授の新崎国広氏からご講演いただいた。 <p>★リーダー研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の推進と地域社会における様々な課題について、認識を深め、ともに学び、ともに語り合う。さらに地域婦人会としての時代に対応した活動との見直しとより自立的な組織をめざすことを目的に、和歌山ビッグ愛に会員70人が参加しました。内容は、「男女共同参画の実現に向けて」をテーマに、和歌山県・和歌山市の男女共同参画アドバイザーの鳥淵朋子氏と、「健口から健幸へ～人生100年笑顔とともに～」をテーマとして、和歌山県歯科衛生士会理事の神屋敷久美氏による講演と、子ども・地域・ふれあい事業の発表、各種事業への参加報告等を行った。
<p>和歌山県和裁協会</p>	<p>★きのくに和歌山ものづくり教室2022 in 海南（コロナの為中止） エコバックを作ろう（あづま袋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きのくに和歌山ものづくり教室2022 in 岩出に参加 エコバックを作ろう（あづま袋）岩出市立体育館 <p>★第19回老人介護施設訪問 綿入れちゃんちゃんこ贈呈 19枚 サービス付高齢者向け住宅 ピースONE</p>

取組団体名	取組事例
和歌山友の会	<p>★子ども係（毎年変わる）主催の集まり。4回のべ30名参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が元気になれる居場所作りとしてトークテーマを決めて話す。「上手に息抜きしませんか」「理想の生活を聞き合う」「〇〇したいと思っているけれど・・・」「子どもの生活時間について」 ・教えて先輩会員さん、として先輩会員に生活技術を習う。「包丁とぎ」「生活工芸の魅力 ステンシルの楽しさ」 <p>★全国友の会（和歌山も含む友の会の全国組織）主催の子育て講演会に参加し学習。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加後、係が学んだことを元に、次の活動スリー・グッド・シングス（ポジティブ心理学による）を計画。 <p>★子どもたちの集まり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/27 子どもたちのzoom会議。1歳から13歳まで。中一女子が司会進行。幼児以上は自分で「嬉しかったこと」を発表。1歳児は「色育」の方法で表現。 ・4/6（年度末の行事として）資源ごみリサイクルセンターの見学と公園での花見。
公益社団法人 母子寡婦福祉連合会	<p>★母子生活支援施設『和歌山すみれホーム』の運営</p> <p>★一時保護委託業務の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV被害者等の一時保護業務を子ども・女性・障害者センターより委託を受け、4件の利用があった。 <p>★子育て短期支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育が一時的に困難になった家庭の児童、経済的な理由により緊急一時的に母子を保護する業務を県内の契約市町村より委託を受け、1件の利用があった。 <p>★わかやまひとり親家庭アシスト事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市を除く各郡市のひとり親家庭を対象に、安定した就労と子育ての環境整備のため、見守り支援員を派遣し、相談に応じたり制度の紹介を行った。また、子育て支援や生活援助が必要な利用登録者には資格を持つ支援員を派遣した。公証役場や裁判所への同行支援も行った。 <p>★わかやまひとり親家庭訪問支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市を除く各郡市の新たに児童扶養手当受給資格を認定された方全員を対象に認定後、支援員が訪問し、支援制度の案内や生活一般に係る相談に応じた。 <p>★就業・自立支援センター事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業相談員を配置し、就業相談に応じ、適切な助言を行うとともに個々の状況に応じた求人や職業訓練等の情報提供を行った。 ・「ライフプランニング&座談会」を開催し、家計の見直しと将来どのくらいお金が必要になるか等を学んだ。講座の後、個別相談も行った。
和歌山イコール会議	<p>★和歌山イコール会議 第10期会員総会（*毎期は10月～翌年9月まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会は、会員の利便性を考慮しオンライン併用で開催、第9期の事業・決算の報告と第10期の事業・予算の計画ほか運営委員変更を承認した。（12月4日<日>10:30～、JAビル2階 和ホール、総勢32名出席） ・全員協議では、各部会・地域ブロック会議から第9期活動報告と第10期活動計画の説明を行った。防災部会では、災害対応支援活動として各地域ブロック会議や他団体と連携し簡易携帯「マイ・トイレセット」6,200セット作成の報告があった。同セットは、和歌山県社会福祉協議会にすべて寄付することとし、県内の各備蓄倉庫で保管され、大型災害時等に配布されるほか、午後からの記念講演会で寄付セレモニーを行うことが報告された。

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>*マイ・トイレセット：災害時等に簡易トイレとして使用する新聞紙ほかでつくる「簡易携帯トイレ」のこと。使用時に必要となる新聞紙の箱型、レジ袋、ペットシート、ポケットティッシュ等を小袋に入れて1セットにし、1人3～7日分（トイレ回数分）を保管しておく。</p> <p>★設立10周年（第10期総会）記念「災害と食」講演会（総勢108人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会に続く記念事業（13：30～）は「10周年記念」とし、これまでの女性たちの防災活動を生かして防災部会が企画・運営を担当した。 ・近年多発する大型災害に備えるべく自治体と連携し、地域に赴き住民を対象に、避難時の食事づくりやマイ・トイレづくりのワーク等、簡単に実践できる知識やノウハウの普及に災害弱者の視点から取り組んできたことから、災害に負けない「元気な和歌山」への推進力にしたいと計画、災害時の重要ポイント「TKB」（*）のうち、K「災害と食」の問題に焦点をあて開催した。講演は、参加型料理教室で東北の復興応援を8年半実施してこられ、多組織・多職種連携で食の防災に取り組まれている（公財）味の素ファンデーション（TAF）の齋藤由里子さんほかに登壇いただいた。開催後の報道や参加者アンケートでは、災害時のためだけに特別に備えない新たな「フェーズフリー」災害対応について、多数の注目をいただいた。 <p>（演題、講師等）</p> <p>トーク①「いざという時どうする？～あなたの食と栄養～」 25分 講師 齋藤 由里子さん （公財）味の素ファンデーション（TAF）被災地復興応援事業マネージャー</p> <p>トーク②「災害時の食生活支援～『生きる』を繋ぐ～」 20分 講師 伊藤 智子さん JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）リーダー</p> <p>トーク③「行政の取組について」 20分 講師 藤戸 恵介さん 和歌山県危機管理局 防災企画課副課長</p> <p>Q&Aとクロストーク 参加者の皆様+講師3人でザックランに意見交換を♪ 35分</p> <p>進行役 榎本 多津子 和歌山イコール会議副代表</p> <p>*TKB：避難時の重要ポイントとされる3つのこと （T=トイレ/排せつ、K=キッチン/食事、B=ベッド/睡眠）</p> <p>★役員・運営委員会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン併用等で3回開催し、第10期総会の議題や10周年記念事業2つ（①設立10周年記念「災害と食」講演会、②災害被災者支援用「マイ・トイレ」セット備蓄事業）について協議したほか、3月には第11期総会に向けて、担当する暴力防止部会が提案の記念事業について内容を協議した。（8月28日、11月5日、3月12日） ・10周年記念事業②について、4つの地域ブロック会議と連携し、役員・運営委員も参加し取り組んだことから、コロナ禍で低調となっていた4ブロックの活動活性化につながった。 <p>★6部会と4ブロック会議について</p> <p>コロナ禍が続き、オンラインでの活動等に取り組んだが、10周年記念事業での地域ブロック会議の活動など、各自が自宅でできる取組も始まり、徐々に部会活動を再開した。</p> <p>各部会・地域ブロックの活動は以下のとおり。</p> <p>1 地域づくり部会 男女共同参画による住みやすい地域をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10期の活動むけてLGBTQへの理解について部会で話し合うなど、打ち合わせ会や事前準備（1月16日、2月13日）を行い、以下の映画会を開催した。 <p>「シネマで話そう！身近なLGBTQ」上映作品：『ウェディング・バンケット』（106分） （2月26日<日>13:00～15:40、“りいびる”会議室A、参加者8名）</p> <p>開催内容：映画というアイテムを使い、気軽に気楽に課題を受けとめられるよう工夫し、視聴後は、お茶を飲みながら感想などを話し合い、意見交換を行った。ざっくばらんに語り合い活発かつ自由に意見が出され充実した時間となった。参加者アンケートから、LGBTQなど性的マイノリティへの理解を深めていただく機会となったという結果であった。また、機会を捉えて、社会的な理解を広げるような発言をすることが必要であり、少なくとも他者の当事者を傷つけるような発言には同意しないことだと確認し合った。また、『LGBTQ豆知識』と題した資料で、SOGIという言葉や性の4要素について理解を深めた。</p>

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>・打ち合わせ会に参加するなど防災部会とコラボレーションのもと「第8回(オンライン)防災セミナーin和歌山」を開催した。(6月26日”りいぶる”)</p> <p>・日本BPW連合会「EPD全国大会」へオンライン参加し、男女格差の実態や女性がおかれている現状を学んだ。(9月18日)</p> <p>2 防災部会 災害時や復興時の男女共同参画による取組が進むことをめざし活動した。</p> <p>・災害と女性の問題を考えるきっかけづくりや災害時の県内女性のネットワーク構築にむけ、毎年地域に出向いて実施している防災セミナーは、災害時の食事作りなどはコロナ禍のため中止し、前回に続いてオンラインで開催した。万が一の災害に備える生活再建支援制度を男女とも事前知っておくことで、互いに意見を出し合い女性の視点も取り入れた再建に取り組みめると考え、制度に詳しい弁護士から学ぶほか、災害時の食について会員が講師をつとめ実施した。(参加者53名)</p> <p>参加者アンケートでは、「(被災した時に備え)知っておかなければならないことがよく理解できた」「クイズ形式で楽しみながら学べた」など、満足の声が多数であった。</p> <p>「8回防災セミナーin和歌山Part2」 (6月26日(日) 10:00~12:00、オンライン参加と聴会場/りいぶる会議室C)</p> <p>セミナー①「熱海土石流を事例にクイズ形式で学ぶ被災後の支援制度」90' 講師：永野 海さん(弁護士、日本防災士機構防災士/ふじのくに防災士)</p> <p>セミナー②「災害時の食について～調理時の衛生やバッククッキング～」20' 講師：三國 和美(栄養士グループNAGA会長、イコール会議役員)</p> <p>・部会はオンラインで5回開催し、前回の防災セミナー開催準備ほか、担当となった10周年記念事業2つの準備に取り組んだ。(4月3日、5月28日、7月30日、10月29日、2月25日)</p> <p>①10周年記念「災害と食」講演会(12月4日、JAビル2階 和ホール) 災害時の食について、役員等を交え、総会講師の齋藤由里子さんによる事前の勉強会をオンラインで行い(4月3日)、以降、部会等で協議し開催計画、当日の運営等を行った。(開催内容等は、総会事業で記載のとおり)</p> <p>②簡易携帯トイレ「マイ・トイレセット」備蓄 和歌山市の水管橋崩落事故から大型災害時に迅速に対応し配布できるようにしたいと、会員で多数の携帯トイレのセットを作成し備蓄することを計画、4地域ブロック会議の活動と連動し、セット品のうち新聞紙で作る箱型づくりに取り組んだほか、連合和歌山女性委員会他6団体でも箱型づくり等の協力を得たことから、当初の想定をこえる6,200セットが完成した。多数を備蓄することとなり、保管先として和歌山県社会福祉協議会の協力を頂き、完成したマイ・トイレセットを同協議会に寄付のもと大型災害時の配布などに活用頂くこととした。</p> <p><マイ・トイレセット作成作業> 協力要請・箱型づくり講習(4月21日、6月9・14日、7月12日) 新聞紙箱型ブロック別回収(4月25・26日、5月8・10日) セット作業(袋詰め)(5月28日、7月19日) 箱型作成方法周知にむけた「マイ・トイレ説明ビデオ」制作(5月15・25日)</p> <p>・他団体のフォーラムなどにオンライン参加し、防災・減災に関する学びを深めた。</p> <p>フォーラム2022 -被災経験をトイレ対策に活かす- (日本トイレ協会)(9月1日) 「高齢者福祉施設の防災対策に関するシンポジウム」(日本防災士会)(9月28日) 「東日本大震災風化防止シンポジウム」(日本防災士会)(3月12日) 令和4年度「防災とボランティアのつどい」(内閣府)(1月22日)</p> <p>3 働き方部会 男女共同参画のもとに女性が活躍できる社会・職場をめざして活動した。</p> <p>・部会をオンラインで開催し、コロナ禍での活動や運営を協議した。(11月20日)</p> <p>・他団体の大会等に自主参加し、男女の賃金格差や働き方等を取り巻く諸問題を学んだ。 日本BPW連合会EPD全国大会(9月18日)</p>

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<p>厚労省委託オンラインセミナー「同一労働同一賃金を究める 2023 春～不合理な待遇差のない『働きがいのある職場』の創造～」(2月8日)</p> <p>4 子育て・介護環境部会 女性が専ら担うことが多い子育てや介護での男女共同参画をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性応援リーフレット(保育活動編)ほかの配布活動に取り組んだ ・部会活動は、他部会の活動支援ほか、他団体の講演に参加し介護における知識を上げた。 <p>「マイ・トイレセット備蓄事業」袋詰め作業(防災部会等)に参加(5月28日)</p> <p>和歌山イコール会議「防災セミナーin和歌山part 2」に参加(6月26日)</p> <p>県訪問介護事業所協議会研修会「障害YouTuberへの道」に自主参加(3月9日)</p> <p>5 暴力防止部会 女性に対する暴力の根絶をめざして活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスタ2022(11月19日<土>10:00~16:00 和歌山ビッグホエール)への参加にむけて展示内容等を事前に協議(8月20日)のうえ、DV防止をテーマにブース出展した。1年ぶりに会員同士が顔を合わせて活動、現地での意見交換もできた。会場では、会員が考案した「降りやまない暴力の雨が止むように!」とパープルリボンをビニール傘に張り付けていただく啓発アクションほか、参加者むけワークショップにも多数の来場者が参加し賑わった。フェスタ終了後は反省会を開催し、今後の活動展開について話し合った。(2月26日) ・他団体の講演会にオンラインで自主参加し、DVに関する学びを深めた。 <p>日本BPW連合会札幌クラブ公開セミナー「ジェンダーからみえるDV被害者の歪んだ価値観」(9月20日)</p> <p>6 多様な生き方応援部会 多様な生き方や活躍を知り学ぶことによる女性のエンパワメントをめざし活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で活躍する女性や特色ある場所等を訪ねるフィールドワークでは、多様な考え方などをお聞きし、パワーを戴いてきたが、今年もコロナ禍で現地へ出かけることは出来なかった。 <p>・部会はオンラインを中心に毎月欠かさずに12回開催した。コロナ終息後を見据えて活動について話し合うほか、新たな学びの場としても取り組んだ。(4月2日、5月28日、6月11日、7月2日、8月5日、9月3日、10月8日、11月8日、12月4日、1月7日、2月4日、3月12日)</p> <p><主な内容></p> <p>(オンライン)小林正観さんの「たんたん生きる」紹介、生涯学習<熱中小学校>の紹介、</p> <p>「人生を楽しむーやりたいこと10ー」をテーマに継続的に取り上げ各自発表(会員交流)第10期活動打ち合わせと食事会、近況報告ほか</p> <p>(参加協力)防災部会主催「マイ・トイレセット備蓄事業」袋詰め作業</p> <p>7 地域ブロック会議 地域ごとの課題解決を目指して活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全域での活動を目指し取り組んでいるが、主に和歌山市内(“りいぶる”会議室)で開催される各部会に、紀南地域など遠方からの出席が難しい場合があることから、会員の住居地域別で4ブロックに分かれ、地元で話し合う「地域ブロック会議」を設けている。コロナ禍からブロック会議の開催を見送っていたが、防災部会と連携し、各自が自宅でする取組となるマイ・トイレセット備蓄にむけた箱型づくり作成協力を会員に呼びかけた。その結果、会員で3000個の作成となり、その箱型回収に合わせて、2年ぶりに各ブロック会議を開催、地域の状況や話題など意見交換を行った。 <p>また、「マイ・トイレセット」の袋詰め作業にも取り組んだ。</p> <p><地域ブロック別の活動日></p> <p>和歌山ブロック/和歌山市、県外(4月26日、5月28日)</p> <p>紀北ブロック/那賀地域、伊都地域(5月10日、5月28日)</p> <p>紀中ブロック/海草地域、御坊市(5月8日、5月28日)</p> <p>紀南ブロック/日高郡、西牟婁地域、東牟婁地域(4月25日、9月25日)</p> <p>★その他(参加等) *印はオンライン参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪万博気運醸成シンポジウム」(和歌山県商工会議所)* (4月29日) ・県男女共同参画特別公開セミナー「男性の子育て・家事参画」(6月1日、ビッグ愛) ・「データ利活用シンポジウム」(県データ利活用推進センター)* (6月19日)

■ 第4章 県民の皆さんの取組状況 ■

取組団体名	取組事例
和歌山イコール会議 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハッピーママライフ講演会「愛着障害の子どもとその家族」＊（8月7日） ・「NPOのための防災講座」（県NPOサポートセンター）＊（8月24日） ・「人と人のつながりが実感できる居場所づくり」（わかやまNPOセンター）＊（9月11日） ・ESRI 政策フォーラム「一静かなる有事ー少子化と男女共同参画」（内閣府） （第1回）「人生100年時代の若者の恋と結婚」＊（10月4日） （第3回）「地方の女性活躍が日本を変える！少子化を止める！」＊（2月17日） ・女性活躍セミナー「女性活躍からはじめるダイバーシティ推進」（和歌山県）＊（2月1日） ・「NPO法人化20周年記念フォーラム」（県NPOセンター）（2月12日、JAビル） ・シンポジウム「郷土の食文化が危うい！食文化は地域資源 その可能性を考える」（わかやまNPOセンター）＊（2月26日）
HML（ハッピーママライフ）	<ul style="list-style-type: none"> ★御坊市教育委員会「子どもへの暴力防止」委託事業実施。 御坊市内の小學生にCAPワークショップを実施。 ★児童虐待防止間に啓発を兼ねたキフPAN事業の実施。 紀の川市 パン・ド・パニエ、喫茶「雅園」 有田市 FieldsR 協力を得て、寄付付商品を販売。 ★関西CAP連絡協議会と交流会を開催。 講師 米澤 好史さん（和歌山大学教育学部教授） 「愛着障害の子どもとその家族」講演会の主催。 ★CAPおとなワークショップの開催。 印南町内にて実施。 ★「チーム紀伊水道」主催LGBTQ映画上映会 in 御坊への協力